2023 年 8 月 11 日号掲載
全国農業新聞

各地の話題
川崎町
地域に息づく郷土芸能

川崎町では６月１１日に「第３０回みやぎ川崎支倉常長まつり」が開催され，地域で「宮城蔵王支倉豊年踊り」の継承に努める支倉豊年踊り保存会がオープニングセレモニーで踊りを披露した。

同町支倉地区に伝わるこの踊りは，五穀豊穣を祈願し、収穫に感謝するために盂蘭盆会（現在のお盆）に踊られており，仙台藩主伊達政宗家臣の支倉常長が，使者としてヨーロッパに派遣された際にも踊られたと言われる。

昭和期に保存会初代会長の佐山吉右エ門が踊りの形や衣装等を改め、現在の形を完成させた。

過去に郷土芸能のコンクールで全国一を受賞した保存会は，県内の盆踊り大会に出場するなど，多くの公演活動を行っており，１９９２年（平成４年）には、宮城県がスペインのコリア・デル・リオ市へ寄贈した支倉常長像の除幕式に参加している。

保存会は，吉右エ門の「農民もただ働くためだけでなく皆で楽しみ、喜べる場がなければならない」という理念を受け継ぎ，地域に根ざした郷土芸能を目指し、地元の小中学校で、伝承のために指導を続けている。

オープニングセレモニーで踊る保存会（1）

オープニングセレモニーで踊る保存会（2）

【記事提供】川崎町農業委員会